

Shell Corena S3 RJ

シェル コレナ S3 RJ

- ・ロングライフ
- ・高引火点-可燃性液体類
- ・熱・酸化安定性
- ・低温始動性
- ・合成油
- ・省エネルギー

シェル コレナ S3 RJ は、シェルグループ独自の合成油を基油に使用した、長寿命、高引火点型の回転式コンプレッサー油です。シェル コレナ S3 RJ はスラッジの生成が少ないため、更油期間の延長、メンテナンスに関わるコスト・手間の削減が期待出来ます。

また、シェル コレナ S3 RJ は蒸発性が低いため、吐出空気中のオイルミストの発生量を低減し、クリーンな環境を実現します。また水分離性能に優れているため、ドレン切りが容易で補充量を低減する事が出来ます。

製品性能と特徴

・ 更油期間の延長に寄与します

シェル コレナ S3 RJ は合成油を基油に使用しており、熱・酸化安定性に優れスラッジの生成が少ないため、油温が高く厳しい条件下においても長期間の使用に耐えるコンプレッサー油です。

・ 機器の安定稼働に寄与します

シェル コレナ S3 RJ はスラッジの生成が少ないため、スラッジによるオイルセパレーター、エレメントの目詰まりを抑え、長期間にわたる機器の安定稼働に貢献します。

・ メンテナンスコストを削減します

シェル コレナ S3 RJ はスラッジの生成が少ないため、更油期間の延長や部品交換頻度の低減により、メンテナンスに関わるコストの削減に寄与します。

・ 補充量を低減します

シェル コレナ S3 RJ は水分離性能が優れているため、ドレン切りが容易で補充量の低減に寄与します。

・ 消防法上の取り扱いが容易です

シェル コレナ S3 RJ は 250℃以上の引火点を有し消防法上の可燃性液体類に分類されるため、第四石油類のコンプレッサー油に比較して、管理や取り扱いが容易になります。

・ 低温時の始動性に優れます

シェル コレナ S3 RJ は合成油を基油に使用することにより、通常のコンプレッサー油よりも高い粘度指数を有しております。また流動点も低いため、低温時の始動性に優れ、冬期間や寒冷地での使用にも適します。

・ オイルミストを低減します

シェル コレナ S3 RJ は蒸発損失が少なく、高温での使用でもオイルの蒸発量が少いため、オイルミストの発生を抑え、クリーンなエアの獲得・オイル消費の低減に寄与します。

シェル コレナ S3 RJ 代表性状								
油種	項目	密度 (15℃) g/cm³	引火点 (開放式) ℃	流動点 ℃	色	動粘度 mm²/s		粘度 指数
						@40℃	@100℃	
シェル コレナ S3 RJ 32		0.828	262	-40.0	L0.5	32	6.1	140

*代表性状値は、商品の改定により、予告せずに変更場合があります。(2016-01)

**シェル コレナ S3 RJ は、可燃性液体類です。

シェル コレナ S3 RJ の販売荷姿 ： 200Lドラム 20L ペール缶

■ 使用上の留意点

- ・機械および潤滑油を長持ちさせるため、新油をタンクに張り込む前に必ず装置のフラッシングを行ない、内部及び潤滑箇所を清浄にするとともに、使用中も異物が混入しないように機器のメンテナンスに充分留意してください。
- ・また、他銘柄との混合使用は油の性能低下をきたすことが考えられますのでできるだけ避け、止むを得ない場合は、時期をみて早めに一度全量交換することをおすすめします。
- ・ご使用にあたっては、事前に安全データシート (SDS) をご覧ください。
- ・製品の海外輸出に際しては、輸出貿易管理令の該非判定だけでなく、その他の要件によって日本政府当局への許可申請が必要になる場合があります。また、仕向国の法規等により輸入制限を受ける場合もありますので、製品を自ら輸出されているお客様は、この点をご理解の上ご自身の責任で必要な措置を講じるようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、ルブカスタマーサービスセンターまでお問い合わせください。

※本資料は、事業者様向けに作成されたものです。



取扱上の注意 ▼下記の注意事項に従ってお取扱ください。

《取り扱い上の注意》	
[安全対策]	・使用前にカタログ、SDS を入手し、全ての安全情報を読み理解するまで取り扱わないこと。 ・取り扱う際は保護具を使用すること。
[応急措置]	・飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。 ・無理に吐かせないこと。 ・飲み込むと下痢・嘔吐を起こすことがあります。 ・目に入ると炎症を起こすことがあります。目に入った場合は、清浄な水で最低 15 分間洗浄し、医師の手当てを受けること。 ・皮膚に触れると炎症を起こすことがあります。皮膚に付着した場合は、水と石鹸で十分に洗うこと。
[保管]	・直射日光を避け、換気の良い場所に保管すること。 ・ゴミ、水分などの混入防止のため使用後は密栓して保管すること。
[廃棄]	・内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。具体的には、都道府県知事等の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。 ・不明な場合は購入先に相談の上処理すること。

Ver.1. 2017.11.1